讀賣新聞
ワークシート通信

2026年 10月 14日

★★

復興願う大輪

年　組（　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK



◆7月の熊本地震からの復興を願って熊本県玉名市でイベントが行われました。

復興願う大輪

玉名市の菊池川河川敷で３日、「玉名花火大会」が開かれ、計１万１発の花火が夜空を彩った＝写真＝。

県内では７月の熊本地震の影響で、花火大会の開催が見送られた例もある。主催した大会実行委員会によると、慎重に検討し「熊本を花火で少しでも元気づけたい」と予定通りの開催を決めたという。今年は「支えあおう熊本」をテーマに、震災からの復興を願う大会に位置づけた。

（2026年10月5日　読売新聞熊本版より）

※先生やおうちの人といっしょによみましょう。

【1】写っているのはなんですか。

【2】空に見える知っている物をたくさん書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

★★★ 山車投げ上げ ○○○○○○

年　組（　）名前

サイン

◆長崎市の諏訪神社の大祭「長崎くんち」で、山車を投げ上げする演目が10年ぶりに披露されました。



（2026年10月7日
読売新聞夕刊より）

山車投げ上げ ○○○○○○ 長崎くんち

江戸時代から約400年続く長崎の秋の風物詩「長崎くんち」が7日、長崎市の諏訪神社で始まった。大勢の観客が見守る中、六つの踊町が「龍踊」や「船回し」などの演し物を奉納した。

長崎くんちは諏訪神社の秋の大祭で、「奉納踊」は国の重要無形民俗文化財に指定されている。今年は市内に約50ある踊町のうち、六つの町が出演。上町は、担ぎ手が威勢の良いかけ声とともに約1トンの山車を投げ上げ、片手で受け止める演目「上町コッコデショ」をコロナ禍などの中止を経て10年ぶりに披露し＝写真、冨田大介撮影＝、会場にはアンコールを意味する「モッテコーイ」の歓声が響いた。

9日までの期間中、市中心部で演し物が披露される。

【1】見出しの○○○○○○部分に入る言葉を、記事の中から抜き出し、書き入れましょう。

【発展問題】あなたの地域の秋祭りについて、その由来も調べて書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信

2026年 10月 14日

★★★★

中国系などの通販　急増

年　　組　（　　）　名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆通販サイトを通じた少額輸入品が急増しています。検査が行き届かず、安全基準に満たない商品や模倣品が流れ込む懸念があり、対策が求められています。

中国系など通販 急増

政府は中国などのインターネット通販サイトの事業者に対し、販売情報の提供などを求めていく方針を固めた。若者を中心に中国系通販サイト「SHEIN（シーイン）」や「Temu（テム）」の人気が高まり、低価格商品の輸入は急増している。税関の検査が追いつかず、模倣品などの流入も確認されていることから、事業者側に対応を求めることで水際対策を強化する。

少額輸入 水際対策を強化

コロナ前の5倍

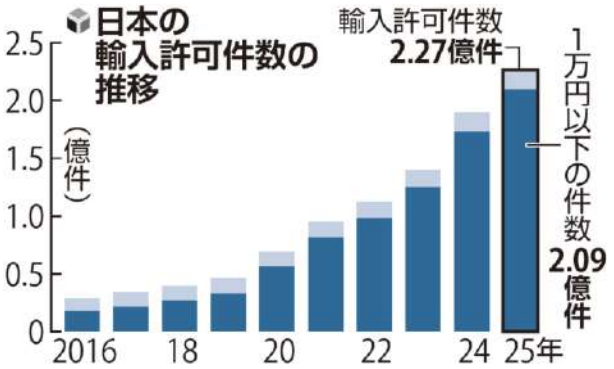
年内にも財務省と事業者との協議会を設立する。事業者側は、シーインやテムの日本法人などの参加を想定している。協議会での議論を経て、来年夏までに販売情報の提供などに関する対応方針をまとめる。

日本の輸入件数は2025年に約2億2700万件と、コロナ禍前の19年と比べて約5倍に増加しており、このうち、1万円以下の品目が全体の9割以上を占める。海外の安価な服や化粧品の購入が増えたことで輸入件数の大半は通販を通じた輸入品となっており、シーインとテムのほか、韓国製商品を多数扱う「Qoo10（キューテン）」の三つのサイトを通じた輸入品が6割超に上っている。

税関の検査が追いつかず、中国系のサイトから違法な商品が輸入されたケースもある。政府は水際対策の強化を掲げており、協議会を通じて事業者にも対応を求めることで不正商品の販売の予防などにつなげる。

中国の通販サイトは海外でも問題となっている。欧州の消費者団体は、出火の恐れがある充電器や有害物質を含むネックレスがあったと公表している。

欧州連合（EU）や英国では通販サイトの事業者らに対し、販売時に商品や取引のデータの提出を求める方針で、日本も諸外国と足並みをそろえたい考えだ。



（2026年10月3日　読売新聞夕刊より）

【1】記事が例示している通販サイトの名前を挙げ、どのような点が問題視されているのか、説明しましょう。

【発展問題】少額輸入による通販が、低価格を実現できる仕組みを調べて、裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　組（　）名前

サイン

◆ふるさと納税制度は、人口が少なく、税収が少ない自治体を財政的に支援し、地域の活性化につなげてもらうために始まりました。しかし、課題も指摘されています。

（2026年10月2日　読売新聞朝刊より）

制度の趣旨に合うよう改めよ

ふるさと納税

生まれ故郷や応援したい自治体に寄付してもらい、地域の活性化につなげることが、制度の趣旨だ。この原点を忘れてはならない。

総務省が1日から、ふるさと納税の寄付額のうち、自治体が寄付の募集にかける経費の上限を「50％」から「47・5％」に引き下げた。この後も段階的に減らし、2029年には「40％」とする。

自治体が自主財源に充てる額をより増やす仕組みに改めることは妥当と言えよう。

ふるさと納税の寄付額は右肩上がりに増えている。ただ、25年度の寄付総額1兆3314億円のうち、募集経費は6382億円に上った。経費が占める割合は47・9％で、自治体の財源に回ったのは52・1％と半分にとどまった。

経費には返礼品の調達費や送料のほか、ふるさと納税の仲介サイトを運営する事業者への手数料が含まれる。自治体にとって、この手数料が重荷となっている。

ふるさと納税は、ほとんど全てが仲介サイト経由で行われているのが実情だ。各自治体が自力で多額の寄付を集めることは困難で、事業者が提示する手数料を受け入れざるを得ない状況にある。

25年度の場合、手数料はサイトを経由した寄付額の11・5％を占め、1490億円に達した。

総務省は、事業者側に手数料の引き下げを要請したが、「システムの維持費がかかる」などと難色を示す声が相次ぎ、時期や料率を示して引き下げる方針を示したのは20社中1社しかなかった。

当時の総務相は「ほぼゼロ回答だ」と述べた。総務省は、手数料の上限設定も視野に改善策を検討している。事業者らと協議を重ねて着地点を探る必要がある。

「地場産品」と銘打つには疑わしい返礼品も目立つ。外国産の高級ワインを地元で熟成させたなどとして、複数の自治体が返礼品に加えている。

行き過ぎた商業化の弊害ではないか。総務省は、誰もが地元で作られたとわかるように基準を厳格化すべきだ。自治体にも良識ある対応が求められよう。

近年、災害の復興などに使うことを明示し、わずかな返礼品で寄付を募る自治体が増えた。移住体験など地域の魅力に触れる返礼品もある。自治体には豪勢さにとらわれず、知恵を絞ってほしい。

東京都などでは他の自治体に寄付する住民が増えて税収が流出し、行政サービスに支障が出かねない状況とされる。国はこうした声にも耳を傾けねばならない。

【1】ふるさと納税制度では現在、どんなことが課題となっているでしょうか。記事から読み取ってまとめましょう。

【発展問題】ふるさと納税を制度の趣旨にあったものにするために、国（総務省）や地方自治体はどうするべきでしょうか。あなたの考えを裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

2026年 10月 14日

★★★ ＜たのしい英語＞go that far

年　組（　）名前

サイン



猫ピッチャー そにしけんじ

NEKO Pitcher 143

Kenji Sonishi

◆新しい球種「チェンジアップ」の練習を始めたミー太郎。コーチに教わった通りに投げてみると、ふわっとした直球になりました。

go that far

そこまでして。やりすぎる。

「I wouldn't」を前につけた「I wouldn't go that far.」は、「そこまでしない。」「それほどでもない。」という意味になります。

★こんな表現も使ってみよう★

- Not really
- not so much

それほどでもない

- go too far　度が過ぎる

単語帳　grip：握る　slip：滑る

★なぞってみよう★

go that far

Not really

©The Yomiuri Shimbun

オンライン同時配信

感染症対策セミナー

2026 10.27 火

参加費無料
17:00 開演

想定外の事態～生徒が集まる場所で出来る備えは？

第1部 17:00-17:30

基調講演

最新の感染症対策

毎年、感染症が流行する季節には全国の学校で学級閉鎖が多発し、先生方もその対策に頭を悩ませているかと思います。
感染症専門の医師に今年の感染状況や流行型の特徴、今後の予測をお話しいただきます。
生徒が集まる場所で実践できる感染させない「予防」と、爆発的に増やさないための「対策」の両面から、ご提案します。



講演者
東京女子医科大学
医学部衛生学公衆衛生学
准教授 武藤 剛 氏

第2部 17:30-18:30

パネルディスカッション

感染症対策～実践編

第２部は実践編として、学校の先生、空気清浄機メーカーエアドッグご担当者と武藤先生をお招きして、学校現場の実践編をお送りします。学校内での具体的な取組、エアドッグの商品による実証データをもとに、校内の学習環境の維持や「換気」のテクニックについてご提案します。

パネリスト

武藤 剛 氏
東京女子医科大学
医学部衛生学公衆衛生学 准教授

金子 暁 先生
広尾学園中学校・高等学校
副校長

吉川 純代 氏
株式会社エアドッグジャパン
取締役

お申し込みはコチラ！

懇親会

19:00 スタート

参加費無料

参加された先生方をお招きした懇親会を予定しています。

会場：KAITEKI CAFE
東京都千代田区大手町 1-6-1
大手町ビル１階

お問合わせ

yomijuken@yomiuri.com
TEL:03-3216-8513
(平日9:30～17:30)
FAX:03-3216-4931
※メール・FAX でも受付可能です

セミナー参加登録

【場所】読売新聞東京本社 新聞教室（千代田区大手町 1−7−1）およびオンライン (Teams) での開催
【交通】東京メトロ千代田線、丸ノ内線、東西線、半蔵門線、都営三田線 大手町駅 C３出口直結
【定員】60 人（応募者多数の場合抽選となる場合がございます）
【主催】読売新聞東京本社メディア局事業部
【協賛】株式会社エアドッグジャパン

読賣新聞　Airdog